

# 京都女子大学 教職支援センター研究紀要

2025年3月 第7号

日独初等音楽教育に見る思考表現のあり方：歌唱指導に着目して	ガハプカ 奈美	1
互いに高め合い探究的に学ぶ児童の育成－振り返りを重視した算数科授業づくり－	岩永 天峰・赤井 秀行・坂井 武司	13
ESDの視点を取り入れた戦後沖縄の歴史学習に関する研究 －地域素材を生かした単元構想－	屋良 真弓・坂井 武司・赤井 秀行・西 竜王	25
小・中9年間の系統性を生かした国語科の学習指導に関する考察 －「書くこと」における構成の検討を中心に－	水戸部修治	37
小学校教員の実務経験を活かした大学の授業に関する研究－A大学教職課程の学生を対象に－	仲井 勝巳	49
戦争文学教材をどう読み深めるか－演劇的手法を用いた「一つの花」の授業実践から－	塩家 崇生・村井 尚子	59
演劇における自己と他者の「あいだ」－中村雄二郎と木村敏を手がかりとして－	村井 尚子	69
管楽器初心者のための合奏指導のガイド－指導上の留意点と教育的意義の検討－	坂本 光太・島田亜紀子	81
幼児向けコンサートによるリズムを中心とした音楽教育プログラムの構成と評価 －「京女こどもコンサート」を事例として－	坂本 光太	93
教職科目「合奏」授業におけるフルート・アンサンブルの有効性 －初心者から上級者までを包摂する指導法の構築－	坂本 光太・島田亜紀子	105
学校におけるリズム系ダンスにかかわる検討課題	大橋奈希左・高田 康史・大西 祐司・小島 理永	117
修学支援新制度と学業の継続－大学に進学する社会的用語経験者に必要な支援－	浦田 雅夫	125
「性教育」概念に学習指導要領の変更は影響をおよぼすのか －1950年代および1990年代の学習指導要領改訂に着目して－	井上 真求・朝田 佳尚	137
デュイ実験学校における教師の専門性を捉える視点 －『実験学校活動報告』(Laboratory School Work Repots)の記述に着目して－	森 久佳	149
ICTを利活用した子ども・子育て支援の経験が保育学生に与える教育効果	瀬々倉玉奈・清水 文	161
中学校での英会話パートナープログラム実践報告	福島知津子	173
活動報告①－昨年度と今年度を比較し、よりよい学生支援を考察する－	高垣 明夫	181
活動報告②－教員採用選考試験前倒しの影響などを振り返る－	天野 聖子	189
活動報告③－教育者・保育者をめざす学生の育成と就職を支援する－	落合 幸子	197
2024年度 教職支援センター年次活動報告		205
投稿規程		209

# 2024年度 教職支援センター年次活動報告

## 1. 教職支援センターの概要

本学では、「教員になる」という強い意志をもつ学生を育成し、質の高い教員をより多く社会に輩出するため、2011年度より教務部教務課（現：教育・学生支援部教務課）のもとに「教職支援センター」を開設し、教職に関する相談体制、指導体制を整備・強化し、教員採用の実績向上を目指してきた。

性格的には教務課の機能の内、教職支援に特化したセンターとして位置づけられるが、2018年度からは既存の教員採用試験対策支援に加え、本学の教職課程充実のための各種施策における中心的な役割を果たし、また地域における学校現場の問題解決に寄与することを目的として組織強化を行っており、教職支援センター長（本学教員・常駐しない）を置くとともに、特定教授（本学教員）を常駐させて学生指導も行っている。

### (1) 業務内容

教職支援センターでは、将来、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校において教職を目指す学生に対して、教職に関する相談業務、進路にかかる指導業務、各種支援講座等の企画・開催に特化した次の業務を所掌する。

- ①教職課程における指導（教育実習指導、介護等体験指導、教職実践演習を含む）
- ②地域貢献（免許状更新講習、現職教員の研修、教員育成協議会、学校ボランティア等）
- ③教職課程の自己点検・評価（FD/SD、業務・研究成果の公表等）
- ④教員採用試験対策指導（筆記試験・面接試験対策の各種講座の実施等）
- ⑤教員採用に関する情報並びに資料の収集と提供
- ⑥教員採用求人及び教員採用状況の紹介（情報は進路・就職課より提供）

### (2) 運営体制

- ①教職支援センターには特定教授（専任）3名、事務職員等を配置し、各学科・専攻の教職担当教員や教職カウンセラーとの連携の中で学生に対する教職支援を行う。
- ②特定教授は、実務家教員として学校現場や教育委員会等の経験を活かして、教職課程科目の担当のほか、教育実習・介護等体験の事前・事後指導や学生の進路相談に関する助言・指導等を行い、全学的な教職課程の指導的役割を担う。
- ③教職カウンセラーは、教職関連進路、教員採用試験対策講座等に関する企画を行う他、教員採用全般にかかる学生からの相談に対して助言・指導を行う。
- ④教職支援センターは、各学科・専攻の教職担当教員と連携する。また、求人情報や採用情報等の集約業務を担当する進路・就職課と有機的に連携を図りながら運営する。

## 2. 2024年度の活動概要

### <4月中旬～7月>

- ・ 特定教授・教職カウンセラーによる教員採用選考試験受験者への個別指導の実施
- ・ 小論文の基礎を解説する講座の実施 ※教職カウンセラー担当
- ・ 小論文に特化した有料講座の実施 ※東京アカデミー主催

### <8月～9月>

- ・ 特定教授・教職カウンセラーによる教員採用選考試験受験者への個別指導の実施

### <10月～翌1月>

- ・ 特定教授・教職カウンセラーによる教職応援セミナー（3回生対象）の実施

開催日	講座名	人数
7月4日（木）	「教員採用選考試験に向けて」 ～今から準備をしなければならないこと～	20
7月18日（木）	「教職の学びの振り返りと今後の課題」	31
7月25日（木）	教育現場で学ぶこと・学んだこと ～様々な経験を教職への道に～	18
9月19日（木）	自己分析・自己PRを考える ～自分のよさを伝えるために～	13
10月31日（木）	あなたが目指す教師像 自治体研究も含む	9
11月21日（木）	覚えておきたい基本マナー ～教員採用試験に向けて～	7
12月10日（火）	面接・集団討論・模擬授業等 ～思いを伝える～	7
合計(延べ数)		105

### <11月～翌3月>・筆記試験対策・小論文に特化した有料講座の実施 ※東京アカデミー主催

東京アカデミー講座	筆記特化	小論文
4～5月実施	-	43名
10～3月実施	56名	32名

### <12月～翌3月>

- ・ 「教員採用選考試験合格者メッセージ」のオンデマンド配信開始

その他、年間を通じて、学生の個別相談・指導、学生ボランティアの紹介、各自治体教育委員会担当者を招いての教員採用選考試験説明会、教師塾説明会を開催。

2024年度開催分 公立学校教員採用選考試験説明会及び「教師塾」説明会開催状況

教育委員会名	前期		後期		「教師塾」説明会			
	開催日	参加人数	開催日	参加人数	開催日	参加人数		
大阪府教育委員会	4月8日	24名	1月16日	29名	-			
兵庫県教育委員会	4月9日※	11名	10月24日	7名				
大阪府豊能地区教育委員会	4月15日	14名	12月16日	4名				
大阪市教育委員会	4月16日	14名	11月11日	14名	1月14日	7		
京都市教育委員会	4月17日	29名	10月10日	17名	6月25日	28		
川崎市教育委員会	4月18日	5名	12月2日	4名	-			
堺市教育委員会	4月19日	2名	11月25日	4名				
神戸市教育委員会	4月22日	16名	10月28日	1名				
岡山市教育委員会	4月23日※	4名	12月11日	2名				
京都府教育委員会	4月25日	33名	11月28日	21名				
横浜市教育委員会	4月26日	9名	12月16日	5名				
愛媛県教育委員会	5月9日	5名	-	-				
富山県教育委員会	5月15日	4名	11月22日	6名				
相模原市教育委員会	5月16日	2名	10月25日	1名				
石川県教育委員会	5月17日	4名	12月18日	1名				
名古屋市教育委員会	-	-	11月29日	8名				
滋賀県教育委員会	-	-	12月12日	25名			7月2日	13
合計	163名		149名				48名	

※オンライン開催

年度別教員採用状況（専任・非常勤別）

	卒業生数	免許取得者数 (A)	教員採用率 (B+C)÷A	教員採用者数								合計 専任+非常勤 B+C	専任採用率 B÷(B+C)	公立学校教員採用試験合格者動向 (京都府、京都市、滋賀県、奈良県、大阪府、大坂市、兵庫県の合格者数と複数名の合格者がいる自治体を記載)
				幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学校	養護教諭	栄養教諭	合計 専任+非常勤 B+C			
2009年度	1,344	524	34%	35(7)	60(33)	3(17)	3(12)	2(2)	-	5(1)	108(72)	60%	京都府2名、京都市10名、滋賀県8名、奈良県9名、大坂市7名、堺市3名、兵庫県0名、横浜市5名	
2010年度	1,360	480	41%	43(8)	57(47)	8(13)	1(9)	1(6)	-	2(1)	112(84)	57%	京都府3名、京都市8名、滋賀県8名、奈良県7名、大坂市3名、堺市2名、兵庫県0名、東京都5名、川崎市3名	
2011年度	1,354	533	37%	37(8)	61(34)	11(12)	0(12)	2(2)	5(8)	3(0)	119(76)	61%	京都府7名、京都市14名、滋賀県7名、奈良県8名、大坂市8名、堺市3名、兵庫県1名	
2012年度	1,332	506	39%	37(6)	66(35)	8(12)	2(8)	1(1)	4(14)	2(1)	120(77)	61%	京都府7名、京都市18名、滋賀県2名、奈良県12名、大坂市3名、堺市1名、兵庫県5名、広島県・広島市5名	
2013年度	1,327	497	41%	39(8)	57(39)	6(11)	1(9)	2(2)	6(20)	3(3)	114(92)	55%	京都府6名、京都市8名、滋賀県12名、奈良県5名、大坂市2名、堺市3名、兵庫県10名	
2014年度	1,493	483	40%	46(6)	74(37)	13(14)	0(1)	0(1)	5(14)	3(0)	141(72)	66%	京都府6名、京都市8名、滋賀県12名、奈良県5名、大坂府18名、堺市2名、神戸市12名	
2015年度	1,518	465	46%	41(5)	55(40)	14(27)	1(2)	1(2)	13(14)	2(3)	126(91)	58%	京都府4名、京都市4名、滋賀県7名、奈良県5名、豊能地区26名、堺市4名、神戸市8名	
2016年度	1,507	459	44%	41(4)	65(35)	14(13)	1(2)	1(2)	11(15)	3(0)	135(69)	66%	京都府4名、京都市5名、大坂府20名、滋賀県7名、豊能地区2名、堺市5名	
2017年度	1,422	395	42%	29(7)	56(24)	12(12)	0(0)	0(0)	7(18)	1(0)	105(61)	60%	京都府6名、京都市7名、大坂府20名、滋賀県6名、大坂市9名、豊能地区2名	
2018年度	1,515	438	51%	41(5)	82(2)	40(13)	0(0)	0(0)	35(4)	3(0)	201(24)	80%	京都府6名、京都市12名、大坂府18名、滋賀県8名、大坂市4名、豊能地区2名	
2019年度	1,373	378	46%	46	61(1)	22(3)	0(0)	0(0)	22(2)	4(14)	155(20)	80%	京都府3名、京都市12名、大坂府6名、滋賀県9名、大坂市4名、堺市1名、兵庫県1名、奈良県4名、和歌山県2名	
2020年度	1,357	363	43%	45(2)	38(17)	12(14)	0(0)	0(0)	9(17)	3(2)	107(52)	60%	京都府8名、京都市9名、大坂府5名、滋賀県6名、大坂市4名、兵庫県1名、奈良県3名	
2021年度	1,324	343	49%	44(3)	44(22)	11(18)	0(0)	0(0)	10(16)	0(0)	109(59)	64%	京都府3名、京都市6名、大坂府6名、大坂市1名、滋賀県6名、奈良県4名、兵庫県2名	
2022年度	1,349	340	43%	34(1)	33(14)	10(17)	9(2)	9(2)	8(20)	0(0)	94(54)	63%	京都府1名、京都市5名、大坂府11名、大坂市3名、滋賀県8名、奈良県3名、兵庫県4名、富山県2名、福井県2名、東京都2名、横浜市2名	
2023年度	1,362	402	40%	42(1)	48(19)	14(10)	7(1)	7(1)	10(8)	0(0)	121(39)	75%	京都府6名、京都市8名、大坂府7名、大坂市7名、滋賀県10名、奈良県1名、兵庫県4名、富山県2名、福井県4名、東京都2名、横浜市3名	

\* 2024年度については集計中のため除外

## 「教職支援センター研究紀要」投稿規程

(2018年9月18日 制定)  
最近改正 2023年9月29日

### 1. 目的

京都女子大学教職支援センター（以下、「教職支援センター」という。）は、教職課程に関する研究成果の公表を目的として「教職支援センター研究紀要」（以下、「本紀要」という。）を発行する。

### 2. 刊行頻度

本紀要は、原則として年1回刊行する。

### 3. 編集委員会

本紀要の編集委員会は、教職支援センター運営委員より選出した委員をもってこれを構成し、編集委員長は教職支援センター長がこれを兼ねる。

2 編集委員は、教職支援センター長が指名する。

3 本紀要の発行に必要な事項については、申し合わせ事項として編集委員会で定める。

### 4. 投稿資格

本紀要の投稿者は、単著の場合は本学の専任教員または非常勤教員でなければならない。共著論文の場合は、本学の専任教員が共著者に含まれていること（専任教員が第一著者でなくても可）。なお、編集委員会が認めた場合（依頼原稿を含む。）は、この限りではない。

### 5. 投稿原稿

本紀要が受領する原稿は、指定されたフォーマットに従っていないといけない。フォーマットの詳細は、別途定める。

### 6. 審査

投稿者は、原稿の提出に先立ち、同一もしくは関連領域を専門とする研究者の内容確認を経ることとする。内容確認に関する詳細は、投稿募集要項にて別途定める。

編集委員会は、受領原稿を審査のうえ、紀要掲載の採否を決定する。

### 7. 不正行為の禁止

編集委員会からの依頼原稿を除き、他誌に掲載された原稿や投稿中のものは受領しない。また剽窃・盗用の疑いがある場合は、文部科学省が定めた「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」等を参考の上、編集委員会で対処する。

### 8. 校正

著者による校正は再校までとする。

### 9. 著作権

掲載された論文等の内容についての責任は著者が負うものとする。また、その著作権は著者に属し、編集出版権は教職支援センターに属する。

### 10. 情報公開

本紀要に掲載する論文等は、原則として「京都女子大学学術情報リポジトリ」で公開する。

### 11. 規程の取扱い

本規程の取扱いは、教職支援センター運営委員会が行う。

#### 附則

この規程は、2018年9月18日から施行する。

#### 附則

この規程は、2020年7月27日から施行する。

#### 附則

この規程は、2021年10月26日から施行する。

#### 附則

この規程は、2023年9月29日から施行する。

以 上

第7号となった教職支援センター研究紀要には、論文16本の投稿がありました。大学教員と非常勤講師や現職教員との共同研究、また、ICT活用やESD、学習の振り返りに係る研究の成果等、幼児教育から大学教育まで、教職に関わる多様な分野からの研究・実践を掲載できたことを喜ばしく思います。今後の教職課程の授業に活かされ、よりよい教員養成に資することを願っています。

2025年1月に、「令和7年度以降の学校におけるICT環境の整備方針及び学校のICT環境整備3か年計画（2025～2027年度）について（通知）」が出されました。この中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために必要不可欠な学習基盤である学校のICT環境の整備水準が示されており、今後ますます学校現場のDX化は加速すると考えられます。このような背景の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のためにICTを活用できる教員の育成は、教員養成課程における最重要課題の一つとなっています。そこで、引き続き、教育におけるICT活用や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する研究成果を積極的にご投稿いただけますよう、お願い申し上げます。

ご寄稿くださった先生方、さらに、編集の労をおとりくださった編集委員の先生方、ありがとうございました。最後になりましたが、編集の仕事を一手に引き受けてくださった教職支援センター事務員の園城麻央さんに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

教職支援センター研究紀要編集委員長 坂井武司

編集委員長 坂井 武司（教育学科教育学専攻）  
編集委員 森 久佳（教育学科教育学専攻）  
齊藤 和貴（教育学科教育学専攻）  
古池 若葉（児童学科）  
大川 尚子（心理共生学科）  
福島 知津子（英文学科）  
林 邦好（データサイエンス学科）

教職支援センタースタッフ

高垣 明夫 教職支援センター特定教授  
天野 聖子 教職支援センター特定教授  
落合 幸子 教職支援センター特定教授  
園城 麻央 教職支援センター事務員  
野久保実紗 教職支援センター事務員

京都女子大学 教職支援センター研究紀要 第7号

発行日 2025年3月10日

編集・発行 京都女子大学教職支援センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35番地

TEL: 075-531-7275 FAX: 075-531-9145

印刷 株式会社 アール工芸印刷社

# THE KWU JOURNAL OF TEACHER EDUCATION

March 2025 Volume 7

The Expression of Thought in Japanese and German Primary Music Education : Through Comparison of Textbooks	GAHABKA Nami	1
Fostering students to learn by inquiry through mutual encouragement : Developing mathematics lessons focused on reflection	IWANAGA Takane/AKAI Hideyuki/ SAKAI Takeshi	13
A Study on Learning History of Postwar in Okinawa from the Perspective of ESD : A Unit Design Utilizing Local Materials	YARA Mayumi/SAKAI Takeshi/AKAI Hideyuki/NISHI Tatsuo	25
A Study on 9-year Systematic Japanese Classes at Elementary and Junior High Schools : Focusing on the Writing Process of Structuring Paragraphs	MITOBE Shuji	37
A Study on Classes Utilizing the Practical Experiences of an Elementary School Teacher : Focusing on Students in the Teacher Training Program at University A.	NAKAI Katsumi	49
How to read and deepen war literature teaching materials -From a practical lesson on "One Flower" using dramatic techniques	SHIOYA Takao/MURAI Naoko	59
A consideration on the use of reflection techniques in teacher training courses	MURAI Naoko	69
A Study on Ensemble Teaching Methods for Beginners in Wind and Percussion Instruments	SHIMADA Akiko/SAKAMOTO Kota	81
On the Educational Potential of Experiential Concerts for Young Children : From the Perspective of Linking the Domain of 'Expression' with Elementary School Learning	SAKAMOTO Kota	93
A Practical Study on Flute Ensemble	SHIMADA Akiko/SAKAMOTO Kota	105
Consideration Issues about Rhythmic Dance in School	OHASHI Nagisa/TAKATA Yasufumi/OHNISHI Yuji/KOJIMA Rie	117
The Fostering Higher Education postsecondary access and retention intervention for youth with foster care experience in Japan	URATA Masao	125
Have Courses of Study influenced Concepts of Sex Education?	INOUE Maki/ASADA Yoshitaka	137
A research on the characteristics and issues of teacher professionalism at the Dewey's Laboratory School	MORI Hisayoshi	149
A Study on the Effectiveness of Childcare Supprts using ICT	SESEKURA Tamana/SHIMIZU Aya	161
The Perspectives of University Students Attending English Conversation Classes at a Junior High School	FUKUSHIMA Chizuko	173
Activity Report Vol. 7, No. 1	TAKAGAKI Akio	181
Activity Report Vol. 7, No. 2	AMANO Kiyoko	189
Activity Report Vol. 7, No. 3	OCHIAI Sachiko	197
2024 Annual Report		205
Guide for Contributors		209